京城新報

人の一生は重荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
本紙定價　▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵稅一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金　▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久太郎
印刷人　松久神一郎
京城西署西小門通（電話六六三）
發行所　京城新報社

土地調査事業の說明（四）

第五章　土地調査と一般經營

土地調査は又一般經濟上の發達に資する所大なり其重要なる者を擧くれは左の如し

一、金利を低下し金融を圓滑ならしむる事　古來農業を以て產業の基礎となしたる朝鮮に在りては商工業の遲々として振はさる蓋し怪しむに足らず近來金融機關漸く整備を告んとするに至りたるも尙ほ有價證券の發行甚た少く其流通の大部分は都會地域にのみ行はるゝか如し故に資金の供給を仰かんか爲めに其擔保として提供し得へきものは唯廉價なる土地有るのみ土地意外に於ては擔保物無しと云ふも敢て過言にあらざるべし然して地主が金錢の融通を得んとするに當り金主は容易に其土地の所在面積及所有權の確否を知り難きを以て一々實地に就き調査せざるべからず爲に此に要する時日と經費は頗る少ならざるのみならず尙は其土地に關し將來に紛爭の危險無きを保せざるを以て典執に際しても土地の時價に甚しき低額の資金を出し其金利も亦た高率なるは自然の理なり此の如く金利は毫も低下するの機會無く有利なる事業も此を企畫する事能はず故に實業界は常に萎靡不振の悲境に在り然るに若し土地調査に依り其土地を官簿に登錄せられ地券の發行を受くるに至る時は地主は地券を以て容易に土地を典當に附することを得べく金主も亦確實に土地を擔保として安心して出資することを得金融の途開け金利低落するに至り地方經濟上に裨益を與ふること蓋し莫大なるべし

二、地方經濟を潤澤ならしむる事　土地調査に要する經費の豫算額は約千數百万圓にして其大部分は此を朝鮮內に於て使用せらるゝものなり殊に局員は國內各地に出張し一地方に永く滯在して衣食住の資料を其地に仰き且人夫を其地に求むるを以て國內到る處資金を散布し爲めに自から各地商業界を殷賑ならしめ全土に亘りて直接間接此を利潤を被り其惠に浴する者多く此に依りて朝鮮の地方經濟を潤澤ならしむること大なり

●棉作及出廻狀況

昨年度の棉作は其の生產時期に於て霖雨の爲め尠なからず成熟の時期を遲延せしめたれば到底一昨年の如き好成績は收め能はざるべき豫想なりしが出廻時期に近づくに從ひ其の作柄の惡しかりしことは愈明かとなり陸地棉は平年の七分作在來棉は漸く四分作位ならんかとの一般の觀測なり是が原因たる棉は元來氣候の變動に感ずること最も甚だしきものあればなり而して陸地棉よりも在來棉に於て特に不良なるを見るこれ在來棉は單に朝鮮農夫の隨意耕作に任じあるも陸地棉は政府に於て近接或は間接に栽培に監督を加へたると棉種自身の優れたるに由れり斯る有樣にて現今僅かに百餘個の出廻高ありたるに過ぎざれば本年の出廻高は確實たる處五六百萬斤の少數に過ぎざるべし

●安東電氣の引續

既記の通り安東電氣株式會社にては舊臘二十五日民團役所樓上に於て株主總會を開き引續き臨時總會に移り既報の如く會社の事業及び資產全部を擧げて滿鐵會社に讓渡す件を可決したるが過般松浦重役と滿鐵側との間に交換されたる假契約書は異議なく承認されたるを以て翌二十六日同社重役並に滿鐵の精谷技師立會の上無事引繼を了し茲に從來の電氣會社は愈々滿鐵の經營に歸したる譯なるが尙ほ個人株金の拂戾は舊年中に於て全部終了せる筈

●滿州の製糸

昨臘中信州有明村の製糸家松島氏が滿州柞蠶事情調査の序を以て營蓋州方面より安東縣に於ける製糸工場を觀覽しつゝありしが今其の談なりと云ふを聞くに同地方の繭は日本產に比し遙かに優等なれども製糸法に未だ改良の餘地あるものゝ如く糸に荒れの多き事及び振の少き事は確に其重なる缺點なるべしと思はる之れが爲め同地方の製糸は日本產に比較し價格半分に過ぎざるのみか優等なる織物を製出すること困難なり但し現今信州地方にて使用しつゝある製糸方法に依れば一日一人の繰糸量尙百六十粒內外を減少するの欠點あれども製糸の市價殆んど二倍に上るべきが故に其欠陷は之を以て償ふを得べし又同地方に製糸工場を設立し製糸せんとするには一方經濟的方面より打算して最も需用多き糸を製出すると共に一方には漸次糸質を改良して良糸を得るの方法を講せば必ず有利なるべきを疑はずと云へり因に記す同氏は調査の結果によりて自ら當地に同製糸業を經營する豫定なりと云ふ

俳句

併台紀念　如月會句案（二）　京城　二春庵宗匠撰（二）

芭蕉忌や耳に染込む夜の雨　棣花
今朝も又茶を煮る程の落葉哉　天女
米積んで懷ぬくし山眠る　柴山
かさ〳〵と骨吹く風や山眠る　凉庵
落葉掻く女若きに寒れたる　彌生
舌皷打つや落葉に歸き負りて　俗佛
世を捨てし庵の後や山眠る　ひさ子
松は實に尊き樹なり神無月　凉山
山茶花や尼も手馴し振り釣瓶　松雪
山茶花や野鍛冶が低き板屁　俗佛
山茶花や沓脫ぐ石に御免下駄　梧桐
山茶花や僅かに日の指小椽先　楊雪
干てある筆濕りたり翁の月　仲浦
裏掃けば表よりも落葉哉　呑海
飛べさふ飛川あり花芒　凉山
浪腰打たせて山は眠り鳧　才涯
山茶花や摺餌寄かふ小鳥籠　子耕
簑着ても袖は濡らさぬ翁の日　夕郎
山茶花や榮耀に盡きた賓邸　凉山
夕陽浴びて山茶花に世拗ねて住居哉　窓山
日毎吹く風に弱れて山眠る　同
山茶花や轉して有彌五郎曰　三勝
萩水

◎新刊紹介

●國民雜誌（二卷一號）　新年號は例に依つて愛山一流の活躍紙面を賑す曰く西洋の眞似は眞平御免曰く疑問の陶庵侯曰く當世流の園原多助淺野總一郎曰く日本銀行增稅論曰く廣軌論　就きては曾我子の批評曰く何曰く何讀み行きて日の暮るゝ事を知らず內容の是非はするだけ野暮尙又附錄として日南の跋將軍愛山の甲越兩雄論等あり（十五錢、東京神田駿河臺國民雜誌社）

●東京經濟雜誌（一五七五）　內容は波多野承五郎氏不景氣の原因機械輸入の將來、肥料の將來、歐米金融事情等讀むべきもの頗る多し（十二錢東京京橋區彌左衞門町經濟雜誌社）

●東洋時報（一四七號）　內容は人口問題、朝鮮の農業、文字の研究等其他趣味ある記事頗る多し（五十錢東京麴町區內山下町東洋協會）

●大坂仕入案內（第四年一月號）　大坂に取引する人には適好の資料たるべし、殊に町內評判記は廣告と相俟ちて見るべきものならん（十五錢大坂西區京町堀上通四丁目大阪仕入案內社）

●少年（一月號）　少年の好讀物として定評ある本誌は新年號に於て頗る趣味ある記事を載せたり發動機船の出來たわけ、少年の參謀官、花粉の空中飛行術、少年飛行家等其他幾十種の記事紙上に溢る、（京橋區南鍋町二丁目時事新報社）

●實業の世界（八卷一號）　社說、新年を機として此の一問題を提供す、福澤桃介氏の惡因緣物語、加藤政之助氏桂內閣の財政計畫を評す森村市左衞門氏の遁れるも遁れないも唯伏心一つにあり阪田豐國銀行專務の景氣恢復の兆あり岡崎代議士の捨てた氣で捨てられて居る隱者哉他附錄として指突主義の題下名七餘名の論說其他幾多の好讀物あり（十一錢東京芝區愛宕町實業の世界社）

●滿韓之實業（六十一號）　市原韓銀總裁の本年の朝鮮經濟界、宇佐川總裁の東拓の根本方針、東拓の移住民、實業上より見たる黑龍江省の價値、滿州の農業等其他幾十の實業に關する有益の記事富なり（二十五錢京城大和町滿韓實業協會）



山中鹿之助

第五十回　西尾麟慶演

斯る折から後ろの襖を押開て夫へ立出たる六十ばかりの老母が聲を掛けました、是れ何者ぞ大谷古猪之助の祖母であります、是は前より虎丸が爲に捕へられて、人質にされて古猪之助を手下に致して置たので御座ひます、老母は虎丸に對つて　老「御頭領今承はりましたが、此婦人ども、只荒々しくのみ致しては、心に從ふものではありません、兎に角婦人と云ふものは、物和かに說き時は合點せずと云ふ事なし、されば妾しに御任し、あれば必ず頭領の心に從ふやう申合めませふ、暫く妾しへ御預け下さるべし」と申しました　虎「然らば汝に預るから宜きやう致せ、」虎丸は其儘元の座に直り、手下の者と酒を飲で居りまする、老母は九重姫と腰元の二人を自分の居室へ連れて來たる、此時兩人は如何なる事かと顏を見合して居りますると、老母は下座に下つて首を下げ　老「這は姫君に在しますか、妾は山中鹿之助樣の御恩を受けましたもので孫は鹿之助樣の御家來に相成る約束を致しましたもので御座ひます、故あつて此岩屋へ捕へられて手下の樣になつて居りまするもので、最前より物影にて樣子を承はりますれば、鹿之助樣の奥方との御事なれば一時虎丸を欺き是へ連れ申上げましたる上は必ず御安心遊ばせ、孫の古猪之助も今茲に御目通りを致しますれば、早速逐り參らせます」と聲て九重姫も安堵致され、之も良人の爲置れし徳と心の內に喜びました、拵も彼方の谷より古猪之助が歸つて來ました　古「老婆さん今戾りました　老「オ、古猪之助か待て居た、サア是へ這入れ」古猪之助が正面を見ると、見馴ぬ二人の婦人が居ります、何者なるかと心に中番を打ちました、老母は古猪之助に對つて　老「コレ、此のた方樣方は、汝が御主君の奥方、那中御門家の姫君なるぞ、如何なる事の間違にや、此山奥へ誘拐され給ふ、されば汝ぞ御恩の報じ處、汝は姫君を御連れ申して一刻も早く此場を立去れ」、聞たる古猪之助大に驚き、古「されば……此姫君を御連れ申して此處を立退事は易けれど、十人廿人ならぬ小賊どもあれば如何して此處を迯れ去らんや、且つ三人の婦人を連れて五人七人なら切拔けらるべきが、名に負ふ大勢の者なれば迚も難し、岩家の入口は一方にて前は道なし、右も左りも迯れ出べき處はなし」と躊躇致して居りました、其時老母は　老「汝は此の御二方の御供致し、千丈ケ谷へ至つて綱をつけて下し、其身も綱にて降り迯よ、我は老朽て世にあるとても何の用なし、依て此處に於て自害を致し相果てれば一刻も早く頭に悟られざる內に此處を立退くべし」、古「我一人御伴致すは易けれど老婆樣を此處に殘し行事は成りがたし、とは云へ三人を身一ツ詭は大勢、千丈ケ谷を忍ぶに致せ、若し過つて彼等に認められる其時には却つて禍ひ是より大なるは無し、如何はせんと途方にくれる樣子、老母は此体を見まして　老「如何に古猪之助、汝日頃の氣質にも似合ず、斯る事を狼狽て如何致す、老先知れたる此婆を思ひ、大事の忠義を缺と云ふ事のあるべきか、婆が事はゆめ〳〵思ひ切て、御二方の御供すべし」、と直立と立上り覺悟の体と見へまして位牌を取出して上座に飾り　老「コレ之を見よ、其方が祖父たる我良人は山陰中納言殿へ仕へて武士の一人なり、然るに其方は民家に育てられ、果はケ樣なる賊の巢に入りたれば、心までが零落するとは不憫さヨ、武士の道は忠義こそ重けれ、孝は輕きもの、汝老婆一人を思ひ大事の御奉公を缺事狼狽たり、老婆が臨終の覺悟を見ヨ」と短劍取出して咽喉にガバと突込みたり、ハツと驚き古猪之助、九重腰元も右と左りに取りすがり介抱致しましたが、最早吭を搔き切て居りますから物云ふも叶はず、只だ首を左右に打振り、手を擧げて早く此場を立退くやうにと云ふが如く其儘息は絶にました、此儘老婆の死骸を賊の手に掛させんも心外なり、幸ひ是なる薪を積上げ死骸を其中に入れ、四方へ火を掛まして、九重姫の手を取り腰元を連れて裏より外へ出ましたが、然るに此兩人の跡もは山路を如何にして思ふやうに步はれやうか、暇どつては一大事と思ふ折しも、其處に大きな鋸繩があつたから、其中へ二人を入れて之を古猪之助が背負ひ千丈ケ谷を望んで來る、此千丈ケ谷は岩家より裏手に當つて通べき道はありません、下を見ると霞で流るゝ谷川は水音だにも聞へず、遙かを見れば百反の布を懸たるかと思ふばかりの瀧、右手は十間餘り嚴しく槐の大木あり、是へ持來りました藤蔓をかけ、鋸繩をかけ、兩人に對つて　古「必ず眼を開く事は無用なり」と云ふ依て二人は眼を閉ぢ手に手を取て段々と繰下され事百四十五間にして下へ着ましたから、其端を枝に縛つて、自分も藤蔓を傳はつて下へ下り來りました、二人も恙なきを喜び、夫より斜めに九折を下りて行くと、此方は大江の虎丸が手下の者共も、古猪之助の住居より火が出ましたから、夫れ火事よと云ふに古猪之助は見へず、二人の女も居りません依て此事を虎丸に注進をする、虎丸大に驚き　虎「されば風を喰つて古猪之助め二人を連て此の岩家を落たと見へる、併し行く道は他になき筈早く手配りせヨ」、下知ノ下より犇き合まする、と手下の者二三人來りまして　〇「私どもは表に居ましたが、古猪之助は表へは參りません、併し此處に居ない處を見れば裏山から迯たに相違ありません」、然らば千丈ケ谷を見ろと云ふソコデ、大勢が千丈ケ谷へ來て見ると槐の枝に藤蔓が下つて居りますから、扨は此處より下りたに相違ない、夫れ追懸けろと二三人藤蔓より傳つて下りました、偖て是より如何相成りますか

東京電報（四日發）

●宮中の新年宴 五日新年宴會は當日に付正午十二時より宮中豐明殿に於て各皇族宮殿下を始め内外臣僚一千餘名を召され盛大なる新年會を催させられたり

●昨年の株式界 昨年の株式界は年末高の豫想にて盛況を呈したるが[illegible]

●突貫組對幹部 [illegible]

雜報

●寺内總督の下仁 寺内總督は七日午前十時三十分の列車にて仁川に[illegible]

●宗教宣布規則 朝鮮に於ける宗教家中には之を唯一の名目として民心を煽動し又は不法の金錢を貪ぼらんとするものありしより當局に於ては是れに對し非常の注意を拂ひ警戒しつゝありしが今回朝鮮に於て宗教を宣布せんとするものに對しては耶蘇教、佛教乃至朝鮮在來の宗教たるを問はず、整理取締等に關する規則を發布する筈にて既に草案成りたるを以て不日總督府令を以て發表せらるべし

●年頭の長官會議 六日午前十時三十分より總督府會議室に於て定例の長官會議を開き寺内總督、山縣政務總監、[illegible]長、石塚取調局長官、倉[illegible]池田通信局長、長官、小原地方局長、小松外[illegible]技師參列し寺内總督の[illegible]重要問題に就いて[illegible]務に民籍及び孝子節婦[illegible]題は非常に進行し午後[illegible]りと

●會計主任會議内容 朝鮮十三[illegible]主任集合し總督府に於[illegible]ゝあるは既報の通りな[illegible]事と共に各道に於ける[illegible]計事務増加したる爲め[illegible]入れ〜打合せを爲す[illegible]によりては會議日數延[illegible]へしと云ふ

●總督と英國總領事 別項記載の英國總領事は七日歸[illegible]より寺内總督は六日同[illegible]招待し午餐會を開きた[illegible]

●觀兵式は不擧行 陸軍始め觀[illegible]日を以て施行する例[illegible]合に依り擧行せざるべ[illegible]

●京畿道特別警戒 鮮[illegible]來となりたるが從來の[illegible]は年末より年初に亘り[illegible]富裕家を襲し金品を掠[illegible]るに付き京畿道廳の[illegible]絶對的に是等の鼠賊の[illegible]ものと認め般來より警務[illegible]具案申請する所あり[illegible]り向ふ二ケ月間内に[illegible]行ふ事となれり其内容[illegible]に明記するを得ざれ[illegible]して盜害其他の豫防に[illegible]制度の如きをも實施

●製系講習會 咸鏡南[illegible]授産金の利子を利用し[illegible]組織し地方民に製系を[illegible]職業を興へん計劃[illegible]發會式を擧行したるが[illegible]し昨今講習を開始し居[illegible]好なりと

●總督府新年宴會 五[illegible]分總督官邸に新年宴[illegible]政務總監、松永二師團[illegible]の各部長官明石警務[illegible]課長、渡邊法院長國分[illegible]部其他文武高等官百餘[illegible]は一場の訓示を興へ[illegible]聽て總督の發聲にて[illegible]の萬歲を三唱し更に[illegible]發聲にて寺内總督の健康を祝し歡を盡して散會したるは午後一時なりし

●總督の記者招待 六日午後六時より寺内總督は同官邸に新聞通信記者を招待し新年宴會を開く筈

●英總領事の歸國 當地駐在英國總領事ヘンリー、ボナール氏は今回病ひ篤き急電に接し賜暇の上七日午前九時南大門驛發列車にて歸國すと

●警務總長邸の新年宴 明石警務總長には五日午後六時より總監部、憲兵司令部員一同を招して新年宴會を張りたるが來會者は六十名近くにて盛大を極めたり又六日は午後三時より同夫人令孃を招し同じく新年會を催せり

●將校夫人連の年賀 五日午後一時軍參謀長官舍に於て將校婦人の年賀會及名刺交換會を開催し來會者五十名以上に上り餘興として講談、琵琶、ヴアイオリン其他種々清新の談話あり且遣英音樂隊の歸還せし一部の奏樂ありて特に春風に冴て近來稀なる盛會なりし

●高陽郡の新年宴會 京畿道高陽郡にては去る三日の元始祭を機會として邑内碧蹄館に於て新年宴會を開きたるに朝鮮人の重なる出席者二百餘名に達し盛會を極めたりと云ふ

●仁川消防夫の宴會 仁川消防夫宴會は六日午後三時日本公園八坂樓にて開會仁川警察署長野村、細谷、金の各警部樋口民團助役等出席し數十の紅裙酒間を斡旋し各十二分の歡を盡して散會せしは同八時頃なりき

●貴族銀行總會 近々貴族銀行と改稱するならんと傳へらるゝ漢城銀行は現在の資本金五十万圓を三百萬圓に増資するの件を附議するの目的を以て其株主總會を來る十五日開催する由なり右に付株主中重役韓相龍派は贊成すべきも他は增資の必要なしとして反對すべきを以て當日の總會は頗る見物なるべしと云ふ

●道長官視察見合せ 檜垣道長官は七日京城商業會議所の視察をなす筈なりしも都合により見合せの事となれり

●檜崎觀一氏東上 大阪毎日新聞京城特派員檜崎觀一氏は社用にて約一ケ月の豫定を以て去る三日歸阪せるが更に東上すべしと

●竹本中佐の歸任 豫て北朝鮮方面旅行中の處二日歸任せり

●宇佐美長官夫人の訃 五日宇佐美内務部長官は在東京の夫人病氣危篤の報に接し同日午前九時十分南大門發急遽東上したるが其後到着したる電報に依れば夫人は養生叶はず同日午前十時牛込柳町二十五番地の自宅に於て逝去したりと

●牧山氏母堂死去 日本電報通信社京城支局長牧山耕藏氏母堂みき子刀自は六日午前十時郷里壹岐國勝本にて死去す

●雜誌新半島發展 元朝鮮日報の主筆として京城の言論界に盛名ありし山道襄一氏は其後警務總監部の囑託となりて朝鮮の舊慣調査に從事し居たるが今回辭職して雜誌新半島を經營する由也

●民團の道路實測 京城市街本町通りの道路は狹隘にして京城市街の發展に伴はざることは一般の認むる所なるに依り京城民團にては道路を改正する爲めに昨年末に於て既に該道路の實測をなせしが或一部に於て寧ろ此際市街全部を改正するに若かずとの論起りたるを以て民團にては比較研究をなす爲め六日より山の手方面の實測に着手したり

●税制調査會總會 當民團の税制調査會總會は彌々來九日午後一時より民團樓上に於て開催さるゝ筈なり

●選擧名簿の發賣 選擧名簿謄寫と題したる項中某氏は逸早くも元旦匆々民團議員選擧名簿を謄寫し終り其夜直、印刷に附し候補運動用に供せし趣を報道せしが尚ほ聞く所によれば同印刷名簿は獨り自家の運動用となすのみならず實は正月の小遣取りの爲め是れを弘く發賣するの目的に印刷せるよしにて昨今それ〜賣出し居るが候補者は相爭して購ひ求むるより仲々大當りを取れりとの事なるが實に思ひ付きと云ふべしさりとても亦其賣行の盛んなるは是れ一面に競爭運動の日一日と劇烈となるを反證するものと云はんか

●撰擧運動界の觀測

京城居留民團議員選擧の大勢は刻々風雲の急を示めし新春の醉夢兎角落ち付かざるの有樣に任り此際試みに大勢の一班を摘記せんに

▲候補者の面々 目下候補者として公然陣頭に乘り出したるものは未だ之を發見せざるも裏面の運動は稍々猛烈なるが如し現に名を新年宴會に藉りて此處彼處に相集ひ而して其中には必ず一人の候補者たらんと欲する人又は候補者の爲めに運動せんとする人宴席に陪して頻りに歡心を求めつゝありとは單に巷間の風評のみに非ざるが如し其集會場は一々茲に擧名すべからざるも先づ東部に在ては有明樓西部に於ては開進亭楓葉等其の主なるものなり又龍山にては昨五日夜各町の新年宴會開かれ其席上に於て候補者を物色し意見の交換を計る處ありたる等なり今目下物色中の京龍各候補者を擧示すれば左の如し

▲京城側

中村再造、森勝次、和田常一、山口太兵衛、城六太、大村保太、秋吉富太郎、林田金次郎、釘本藤次郎、關繁太郎、梶原末太郎、石井新、中島司馬之助、皆川廣濟、松永達次郎、曾我勉（以上現議員）

三好和三郎、大久保雅彦、高橋章之助、進辰馬、松浦源次、増田三穗、田村義次郎、深水清、原勝一、池田長次郎、古城梅溪、池田長兵衛、淵上貞助、石橋利三郎（以上新顔觸）

▲龍山側

兼古禮藏、渡邊興三郎、藤野秀吉、海津三雄、國井泉、竹内菊太郎、松本彌三、大村百藏、執行猿太郎（以上現議員）

渡邊五郎、村井德久（以上新顔觸）

▲其勢力概勢 以上候補者に就き其者力系統を穿鑿せんに京城區に於て徹頭徹尾團結し互に相倚り相待ちて必ず當撰すべきものは中村、森、和田、秋吉、林田、釘本、關、梶原の八氏なり山口氏は烟草會社問題以來一部の反感を買ひ多少鼎の輕きを見るも尚は牢乎不穩の暗勢あり石井氏は若草町櫻井町を地盤とし必ず當撰すべく自信し中島皆川の兩氏は莫逆の結合を策し氣脈を石井氏に通じ居るも一般の同情如何かと思はるゝ節あり松永氏は孤立の姿に在れば最も困難なるべし若夫れ新顏觸に見んか三好氏は幾干の犧牲を拂ふも敢て辭せざるの概を示めし大久保、高橋兩氏は極力必成を期しつゝなり進氏も亦必ず當撰、前回の恥を雪ぐべく松浦氏非常の熱心を表しつゝあり増田氏は獨り自から樂觀し居るも果して然るを得るや否や深水氏の熱心は寧ろ驚くべく遠からず其部下を督勵して躍起すべく期待せらる、原勝一氏は各候補中最も熱烈を極むる運動者なり、精神一到何事か成らざらん大に行るべし池田長次郎氏は三好氏の勢力に隨伴して縱令當撰せざるまでも次點者は請合なり大村保太氏は三好氏一派に通じ更に和田氏の勢力下に走り居れば益々有望ならん而して龍山は結局兼古渡邊藤野竹内村井國井の七氏候補に立つべし海津氏は既に辭退の色あるも一部の推薦頻りなれば或は蹶起するやも知れず大村氏は國井氏との關係上國井氏若し避くるが如き事あらば之が權利を繼承するものは同氏なり要するに金力關係に依り多數の有權者を惱縛し居るものは勢力なり某々諸氏の如きは即ち夫也故に此勢力を辿らんと腐心せる者尠からず以上は目下の概勢なるが結局候補者數五十名を現出す可を以て兩三日中には更に變化せる新現象を見んか。

▲有權者と京龍 顧つて之を有權有數に見京龍山の大勢を觀測せんに龍山は既に絶大の不利益を占む今兩地の有權數を比較して考量せん

京城	民團	二、八九四	計五、四四九
	官吏	二、六〇一	
龍山	民團	六七一	計九五九
	官吏	二八八	

則ち非常の差少なり今假りに出現すべく候補者を五十名ありとせんが十名聯記の投票あるを以て九百票〇九を得ざるべからず然るに棄權者も亦尠からざれば龍山にて此數を得るは頗る困難なり而して目下の豫定によれば今回の當撰得點數は最低限八百票を必要とする九百五十九票、總票數なる龍山にて之を得るは容易の業に非ざるべく故に結局龍山は自已の得票を提供して京城に安協を乞ひ血路を求むるの外なかるべし若然らんか精々五名の議員撰出し得る事位を以て龍山の成功なりと評するものなり

▲撰擧と官憲 官憲の撰擧に對する取締方針は昨今漸く嚴となり各候補らしき人々に對し特別の注意を拂ひつゝありと然れば運動愈々激烈となれば倍々警戒を强めらるべし

民團議員豫選投票

民團議員豫選投票規定

一、京城民團民會議員適任者と認むる者卅名を有資格者中より選出する事
一、投票用紙は本新報に刷込ある用紙に限る事但し投票人は無記名とす
一、一枚の用紙に認むべき議員適任者の數は五人以内たるべき事
一、投票は本社前の投票函若しくは左の箇所に於ける本社投票函へ投入の事

本町一丁目　青木堂新築場前
本町二丁目　町田文林堂横
本町四丁目花月通り　中村時計店横
本町六丁目洋服商　灘山支店横
明治二丁目　日韓印刷會社前
南大門停車場　伊藤組出張所前
龍山新市街山下町　小杉組出張所前
龍山舊市街民團役所出張所　會澤事務所前

右の外郵送及び直送の分は從前の通り本社豫選投票掛へ宛らるゝ事
一、締切は明治四十四年一月二十日とす但し日々に於ける投票の結果は日々の紙上に於て公にすべし
一、總開票は締切の當日若は翌日とす但其結果は本紙上に公にすべし
一、總開票立會人は追つて決定の上發表すべし
右以外必要の事は追次本紙上に廣告す

（六日締切迄の着票）

五百十五票	中村再造
四百六十二票	山口太兵衛
四百四十一票	釘本藤次郎
四百十五票	森勝次
三百九十九票	和田常市
三百九十八票	中島司馬之助
三百七十三票	三好和三郎
三百七十票	高橋章之助
三百六十五票	秋吉富太郎
三百六十五票	古城梅溪
三百六十票	城六太
三百四十八票	關繁太郎
三百二十七票	松永達二郎
三百二十五票	増田三穗
三百二十四票	菅原大太郎
三百二十票	池田長兵衛
三百六票	田村義二郎
二百九十三票	梶原末太郎
二百八十一票	曾我勉
二百七十三票	大久保雅彦
二百七十票	小林藤右衛門
二百五十三票	大村保太
二百四十票	大村百藏
二百三十八票	兼古禮藏
二百二十五票	進辰馬
二百十八票	田中始一郎
二百十五票	石橋利三郎
二百八票	執行猪太郎
二百三票	松浦源治
百八十五票	池田長次郎
百六十二票	德久米藏
百四十七票	皆川廣濟
百三十二票	前田熊市
百十六票	國井泉
百十票	淵上貞介
百八票	海津三雄
百六票	大坪文吉
百五票	佐野彦藏
一票	平渴智
一票	加藤淸

注意 前號に發表せし得點者にて點數の其儘なるものは本日の表に加へず尚本日よりは五十點以下の得點は新候補者以外は掲載せず

▲相場電報（明治町着電西村支店）

▲大阪株式（六日）

銘柄		前場	後場
▲神戸	寄	三九、二〇	三九、六〇
電鐵	引	三九、四〇	三九、七〇
▲京坂	同	六三、三〇	六三、〇〇
電鐵	同	六三、三〇	六二、九〇
▲鐘淵	同	一〇九、九〇	一〇九、八〇
紡績	同	一〇九、八〇	一〇九、三〇
▲日本	同	九九、四〇	九九、四〇
郵船	同	九九、三〇	九九、二〇
▲東京	同	一三二、二〇	一三一、二〇
株新	同	一三一、八〇	一三〇、二〇
▲大坂	同	一四三、二〇	一四二、八〇
株式	同	一四三、二〇	一四二、二〇
▲同直	同	一四一、四〇	一四一、三〇
取引	同	一四一、四〇	一四一、四〇

▲大阪期米

▲五日休會
▲（六日）前場一月寄十四圓四十七錢▲二月寄七十七錢▲三月寄[illegible]

▲仁川米豆取引

▲五日 後場三月寄[illegible]最高九圓八十五錢▲最低一錢▲止一錢
●（六日）前場一月寄九圓八十[illegible]二月寄同上▲三月寄九圓八十[illegible]最高八十四錢▲最低一錢▲止三錢

▲治外法權▼

新年新年と[illegible]て居る中に、モウ松がとれた、[illegible]かねばならぬ、サア之から、[illegible]ヤルカチ▲今回總督府が會社令[illegible]したに付て腰を拔かした者は此[illegible]から歸つて來た例の烟草會社の[illegible]腰を拔かした者が外にも澤山あ[illegible]大村某だ、イヤ大村某ばかりで[illegible]レは例の醜漢加藤がヤツて居る[illegible]社關係の運動屋共だ▲煙草會社[illegible]ば其發頭人たる平渡某は最近京[illegible]指金で表面會社との關係を絶[illegible]士の看板を掛けたソウだ、之が[illegible]と本紙の記事も少しは效能があ[illegible]だ▲此頃滿鐵が其社債を英國で[illegible]んとした、トコロが倫敦の商業[illegible]が之に反對した、其反對の口實[illegible]日英關税問題の解決を見ぬ中は[illegible]金を貸すなと▲一寸聞くと倫敦[illegible]會議所があまりに無法の樣だが[illegible]人の考などとしてはドコデも[illegible]のだ、アー耻をかゝされて怒[illegible]耻を搔きに行かぬ樣平常の心[illegible]だ▲内地人側の新年はモウ濟[illegible]人側は今が最の興最中だ、同[illegible]新年が二度ある、コレは社會[illegible]甚だ良くない事だ、ドウカ來[illegible]ヨにシタイものだ▲名刺の謹[illegible]ハガキの千里同風、手輕で結[illegible]併し年賀もコウ手輕になつて[illegible]目出度さの程度を減ずるよう[illegible]名刺と云ひハガキと云ひ活版[illegible]さる直筆の方はヨホド重厚の[illegible]剌の直筆、之は滅多に無い、[illegible]人には中々書けないからだ、[illegible]

歌留多大競技會延期

▲來る十五日に

舊臘中本紙上にて本社主催の下に當一月の第二日曜日（八日）を以て大々的歌留多會を開催す可く普く同好の諸君に務つて御參加あらん事を御勸誘申上げ尚引續き歌留多早取の秘傳まで特に諸君の爲め連載せしに就ては我こそ八日の歌留多會には名譽の月桂冠を戴き胸に優勝の金メタルを輝かさんと定めし日夜之れが稽古に餘念無き事と存じ社員一同も他に月桂冠を取られては主催の二字に恥ぢ非常い意氣込みにて今や明暮練習中に候次第同好の諸君チッとも御油斷無之樣一寸御一報申上げ置候然る處第二日曜日（八日）とは、まだ屠蘇の香も失せず待つて短かき一日を聊たる／＼諸君方も不尠と被存候に付き十五日（第三日曜日）に延期仕候條比較的閑散なる今日此の頃一層御練習の上御參加當日は花々しく優勝の秘法を實地應用し此處が天下別け目の戰場と花々しき奮闘こそ願はしく詳細は追て紙上に掲載可仕候も一寸延期の御報導致し候のみ

活動寫眞　覆面子

五日　夜の南大門驛

寒威料峭軒燈淡く、一痕の新月半空に冴ゆる春の宵、凍れる街路を辿れば半影髣髴として戛々の音のみ響き、風流男の投節も聞へず、酒亭に絃歌も漏れず、天下は泰平なりと感嘆しつゝ、構內に身を投じて一等室に入れば　これは／＼とばかり花の吉野山ならなくに梅櫻桃李咲き亂れて『春風瀞水一時來』に一驚を喫せしめたる嬌窕婀娜たる美形十名が一列、隊を成せるにぞありける。室內の寂莫は此の珍客の談笑に破られて、折柄の衆目は流水の如く注がる。午後八時二十五分釜山よりの列車は延着した、之れと同時に此の美形の一隊は皆入場券を手にして柵外に優しき姿を沒した。が暫時にして彼等は一人の女を圍みて驛外に出て人車十餘輛、整々として歸路に就いた、とのみにて筆を投せば諸君は失望せらるゝであらう　僕は諸君の失望を看過するに忍びない　依て茲に其何人なるやを報知する、云はく之れ。大和町料理店榮月樓の女將を迎ふる爲めの仰々しき振舞であつた。と書しては諸君は『何だ馬鹿／＼しい』と失望せらるゝことゝ信ずる、が之れとしも書かねばならぬ僕の愚に同情を乞ひたい。三等室はと見れば入口のベンチに置ける富山縣氷見郡氷見町堺常吉の木札大なる行李が目に着く。手小荷物扱所には京城本町四丁目日の出商行出　鳥致院驛前酒井書店行　釜山辨天町呉竹呉服店行の二箱と無名の行李二三個が積である　進物なるらん　明太魚の卵を詰めた小樽には東京市麻布區靈南坂町二七寺尾亭殿行　差出人は米倉町吉田節太郎と早書きしてある。日々目に着くほど感心に立働き居る驛員は紺野とやら云ふ者だ、兎角驛員には不感服のもの多く過日も定乘學生に對し日曜日に乘車せりとて其出場を拒み高女學生萩原八重子等姉妹を泣かしめたる不埒の出札掛ありしを聞きしに、此驛員の豆々しき働き振りには少なからず感服する　午後十時四十分、南行車は依然として少數の乘客を拉して靜かに發車せる後の構內は只、ひしと寒氣の身に逼るを覺ゆる。時しも電車二輛は驛前に不停車して南大門方面に疾走し去つた　乘客忙然として之れを見送り不都合なる電車よと怒聲高く足音は次第に遠かる。

歌留多必勝法（東京明滑會選手談）

▲札の並べ方

人に依りて其並べ方を異にすれど多くは上の句或は下の句に依つて並ぶるが常なり、此の二種の中に於ても自ら利害を生ずるは止むを得ざる事なるべし即ち上の句に依るものは自分にも取り易き代り敵にも奪はれ易く、下の句に依れるものは自己も取り惜きと同時に敵も又取り惜きものなり、されども如何に取り惜しとは云へ自己の札は人のより割合に取り易きものなる上敵の攻撃に幾分かの餘裕を與へるものなれば攻守共に相伯仲せる人と攻撃に妙を得たる人とは下の句に依れる方利益あるべく、上の句は守勢に得意なる人に適當なる並べ方なり、而して自己の持札は敵の注意を二分すべく左右へ並べ置きたる上、山札は兩側、自己が好む札は左に、遲き札は右へ、一字札（ふ、さ、ほ、せ、む、す、め）は左下段へ置く方が得策なるべし

▲作戰

如何なる勝負事にても此の作戰なるものが重大なる事は今更ら云ふ迄もなき事なれば、出來得る限り頭腦を冷靜にして左に記るしたる上臨機應變の處置に出でざる可らず。

敵の態度を觀察

一、敵の姿勢を見て何れの部分に遲速あるかを看破する事
二、敵は山を張る人なるや否や
三、攻撃が得意なるや又守勢が得意なるや
四、時に何れに遲速ありや
五、敵の手の速力
六、敵の作戰
七、敵は神經質なるや否や

夫れに依つて**送札を種々選定**するものなれば作戰の中にても最も送**札が重要**なるものなり、然らば右の如き場合には如何なる作戰を以て是れに應ずべきやと云ふに先づ左の如くせば有効なるべし

一、遲き場所に札を送るか或は狙ふ
二、山札を二分し置く（即ち自己の手許に二枚ある場合には一枚を敵に送ると云ふ樣にする
三、攻撃が得意の場合には堅く守り守勢が得意なれば盛んに攻撃して混亂させる
四、敵の遲き札を送る（早き札も勿論）
五、山札を用ひて手の速力を鈍らす
六、敵の作戰の裏を欠く
七、敵に山札を揃へさせ或は敵の氣に掛る樣な札を送っ

其の例を擧ぐれば斯くの如くなるが又敵よりの送札なるものも何の**意味**なるやを**研究**する事は最も必要なるべし、例へば攻撃の得意なる人は重に自己が嫌ふ札か遲き札を、守勢に得意なる人は自己が狙ひ居る札か或は好む早い札を送り來るものなれば也。

▲取り方

取り方には跳飛ばし、突き、押へ、引く等種々あれども札の位置に依て夫れ／＼用ふべきものなり、例へば敵の札の中央を取らんとする時には突き、右の時には突き或は押へ、左は跳飛ばし自己の札は引く方がよかるべし。

▲練習法

練習を行はむとする時には嫌びなる札及び遲き札を自己が持ち特意なる札なる可く他のと持替へるべし、取り方は札に手を突くが否や手許に引込むが如くなさば遂には手の速力迅かとなるべし但し試台の際には是と反對に札に達する迄は全速力を出し手を引く際には緩くりする方がよろしかるべし

●大賣出景品抽籤

京城の各商店を以て組織せる京城繁榮會は例年の通り昨年末も景品券附大賣出をなしたるが景品券總數四十萬の中三十三萬四千餘枚を賣出したる由にて明七日午前十時南山町の本願寺別院に於て抽籤をなす由なり

かるた遊び

●書籍を賣て色に代ふ

京城大和町一丁目八十九番戸高杉方居住山口縣人藤田元助（三五）は南山町三丁目谷岡達次の設立に係る京城速記學會の書冊部主任に雇はれ中主人谷岡が朝鮮講演集第一輯の賣捌き方を其の編纂者大村某より依頼され谷岡は更らに之れを藤田に販賣方を托したるが藤田元來の多情男とて太平町長谷川町附近の小料理店に於て遊興する事甚だしく其の遊興費は全部該書籍販賣代を利用せしが限りある代金は費消して終ふたるより今度は何んでも只だに限ると谷岡の經營せる漢城看護婦會の看護婦柿本某に目を着け或る夜柿本の寢室に至りし處柿本は斯の樣な浮氣男の淫賣許り買ふ人は嫌やですよと美事に肱鐵砲を喰され面目なさにや碌々谷岡の事務所にも來らず書籍代の計算を爲さゞるのみか却つて谷岡の實母に暴言吐きしより兩部署に告訴されたりと

●年頭の天然痘

原籍長崎縣彼杵郡時津村當時龍山櫻町三〇番地山口德次郎（二七）は天然痘に罹り五日青坡避病院に收容せられ重症の由居住者は時節柄注意肝要なるべし

●荷物の迷兒

朝鮮總督府鐵道局にては左記荷受人及荷送人不明荷物を保管し居る故心當りの向は本月より六箇月內に申出す可し此の事にして若し右期間內に權利者の申出で無き時は左記荷物は鐵道局にて其の所有權を取得すとの事なり

一椅子一個　四十三年九月九日開城驛送出龍山驛發附隨小荷物にして荷送人荷受人共重德とあり
一竹行李（アニリン染粉小瓶十二個入）一個　四十三年九月十一月南大門驛一時預り品預け主數綺
一三番形柳行李（朝鮮人衣類及蚊帳等入）一個　四十三年九月十二日金泉驛送出仁川驛發手荷物
一合財袋（綿古衣入）一個　四十三年十一月十四日平壤驛送出南市驛發小荷物にして送人鳳山郡沙里院崔承鎭荷受人鐵山郡儀連里張行面允官內崔承鎭

●新年の遊廓

呉越の客を迎へて欣々然たる遊君、よくその郞を過して後朝の別れに顧眄一擲の淚を下らしめしや否や「寒信先通兩行燈影」あゝ見返柳に人目を忍びて堅く再會を約する風情や如何に、戀か、酒か、こゝ浮れ寄る鼻下長連の隨喜の涎貫を一寸一括御披露申す但し御姓名は御年玉として秘めて差上申すなり

▲新町	一日	一七五、	金高	八九六、七八
同	二日	二五八、	同	一、三六七、七一
同	三日	二四九、	同	一、三五〇、七三
▲新地	一日	三六、	同	一二三、二五
同	二日	四六、	同	一九四、三〇
同	三日	四七、	同	三九三、四六
▲桃山	一日	三〇、	同	一五八、一五
同	二日	五〇、	同	二四一、一七
同	三日	五三、	同	一五九、六四

●仁川の初火事

六日午前三時十五分仁川新花村洞質商大峠梅吉方の空家より發火全燒五戸半燒二戸を燒失し同四時三十分鎭火せり原因不明

目と耳（七日分）

●壽座　市川鯉三郎片岡櫻十郎一座七日の替り狂言は前石川五右衛門大序より釜入迄切狂言御所櫻堀川夜討藤彌太物語

●舞歌伎座　同じく七日の替り狂言は一番目義士銘々傳の內高田馬場堀部安兵衛仇討、二番目重の井子別れにして重の井新右衛門は島之助の十八番との事なれば定めし見物なるべし

●浪花館　初日より大評判大入續きなる東京落語音曲手踊米枝一座の七日の藝題は左の通り

影芝居御祝儀會我之石段（米若）落語東の旅（駒之助）落語道かん音曲手踊（桃輔）落語狂言合音曲手とり（二枝）落語於文樣手踊（正好）記れく術（木村濱）落語傳者達指寫書（龍齋）落語小言幸兵衛手踊ステヽコ（圓駒）落語芝居風呂（米枝）連席御題話音曲手踊（連中惣出）

●東京相撲新番附

國技館一月場所の新番附は三日黎明角觝協會より發表せり新舊對照左の如し

東の方

	（新）	（舊）
張出大關	西の海	駒ケ嶽
橫綱	常陸山	常陸山
大關	駒ケ嶽	西の海
關脇	朝汐	朝汐
小結	高見山	小常陸
前頭	浪の音	碇潟
同	八島山	兩國
同	小常陸	千年川
同	綾浪	大湊
同	大の川	高見山
同	兩國	綾浪
同	碇潟	大の川
同	立川	八島山
同	山泉	龍ケ崎
同	龍ケ崎	浪の音
同	大湊	山泉
同	大綠	大綠
同	常磐龍	立川
同	近江[illegible]	尼ケ崎
同	佐賀海	小柳
同	玉の浦	近江[illegible]

西の方

	（新）	（舊）
張出大關	國見山	國見山
橫綱	梅ケ谷	梅ケ谷
大關	太刀山	太刀山
關脇	玉椿	伊勢濱
小結	鳳	大鳴門
前頭	伊勢濱	玉椿
同	黒瀬川	土州山
同	綠嶋	鳳
同	千年川	瀧の音
同	七州山	有明
同	大鳴門	綠島
同	鶴渡	鶴渡
同	陣立	陣立
同	五十嵐	上ケ汐
同	上ケ汐	鏡川
同	大蛇潟	黒瀬川
同	有明	梅の花
同	鏡川	柏戸
同	梅の花	柏山
同	八甲山	大蛇潟
同	平の石	藤島

幕下

張出	前頭	前頭	同	同	同	同	同	同	同	同	同
雲龍	柏戸	尼ケ崎	柏山	小柳	立汐	神崎	佐倉川	梅川	浦の濱	雷ケ浦	
稲瀬川	紫雲龍	佐賀海	氷見濱	綾川	岩木山	八甲山	雷ケ浦	入間川	日本海	槇の島	

前頭	同	同	同	同	同	同	同	同	同
明石龍	綾川	白梅	石山	槇の島	寒玉子	太刀の音	勝田嶽	日本海	氷見濱
平の石	白梅	明石龍	石山	立沙	荒角	太刀勇	男島	玉の浦	神崎

右の內西方幕五十嵐とあるは瀧の音の西方幕下太刀の音は太刀勇の改名したるなり因みに放駒は相生と改名三役格にて東方より登場する都合なりと

●小寒

六日より小寒に入れり

今日の運勢

一月七日舊十二月七日　丑　黃　丁　赤口　建

△一白　新事旅行、婚談に忌む貸借金談賣買交涉事徒勞に歸せんとす
△二黑　婚談集會祝典運盟に吉其他平凡
△三碧　新事見合せの事旅行轉住談判熟議交涉不動産の事徒勞多からんとす
△四綠　貸借賣買談議運合の事間違故障起らんとす起業開店轉住旅行見合せたるべし
△五黃　賭事酒色を禁ず協議に馳せて後累を貽す勿れ
△六白　快欣の日大抵吉療病及衛生留意の事
△七赤　雇入れ婚談共同新台宴會祝典見合せの事其他進んで吉
△八白　家族從者の事煩鎖多し其他平和の日轉宅改築轉業候樣方針替に吉
△九紫　會見商談協定示談熟議に吉貸借賣買手打への事

（本町五丁目三一館判斷）

空前の偉觀を呈せる五大雑誌の新年號を見られよ

謹告

五大雑誌新年號は例年の通り大増刷致候へ共本年は意外の盛況にて全國各書店よりの増注文に應じ切れず直に再版に着手致候これが爲地方書店よりの御注文に對し多少減送せし分も可有之誠に御氣の毒に存じ候併し近日中再版出來と同時に追送可致尚賣れ行きの摸樣に依て増注文願上候直接購讀者へ對しては不便無之樣本社に多少の用意致置候へ共此形勢にては何時品切れと相成るやも不計候間此際大至急御注文の程希望致候

實業之日本

第十四卷第一號 一冊二十錢 郵稅二錢 五厘

總紙數二百八頁通常號の二倍半

▲英雄崇拜論……新渡戸博士

◎大隈伯の大人傑たる國民性の研究
◎列强の大波瀾 我が商工業の根本方針……實業之日本社長 増田義一
◎四十八回失敗より起きて成功せる快男兒奮闘歷 農商務大臣 大浦兼武
◎日露戰後大きくなりたる實業家調べ(興味百出)

大附錄 世界十大人傑

紙數百廿八頁

是れ現代の五十名家が特に本社の爲に選定せるもの、何人が如何なる人傑を投票せしかは悉く掲載す、是れ未曾有の壯擧にして實に空前の偉觀也

評論執筆者
▲大隈伯爵 ▲牧野前文相 ▲金子堅太郎 ▲末松博士 ▲新渡戸博士 ▲天野博士 ▲元良博士
▲坪井博士 ▲上田博士 ▲市村博士 ▲瀬川博士 ▲田中博士 ▲南條博士 ▲阪谷博士
▲添田博士 ▲星野博士 ▲黒板博士 ▲富井博士 ▲大石正巳 ▲海老名彈正 ▲湯本武比古

半年六冊 一圓十錢 一年十二冊 二圓十錢

◎初夢の說……新渡戸博士
◎腹式呼吸にて體量五貫増加せし實驗
◎名士記憶法實驗
◎雪月花に譬へたる各銀行會社の三人男
◎學校時代一番とビリの卒業後の成績
◎青春活力持續法
▲余が事物觀察法……大隈伯

婦人世界

八卷一號 一冊 拾五錢 本號に限り郵稅貳錢

◎正月の子供の遊びと食物の注意……加藤博士
◎家庭の人としての新島襄先生の平生……新島未亡人
▲女學校卒業生の實際役に立たぬか……下田歌子
(下田女史は本號より毎號本誌に執筆さるゝことゝなれり)
◎五十年前の私の嫁入姿……判事夫人 池田松子
◎未婚の男女は如何なる配偶を選ぶか……女子商業學校學監 嘉悅孝子
▲人情論(男女必讀)……村井弦齋
◎われとわが多福の先祖は誰か……早稻田大學講師 武田豐四郎

新年附錄 家庭旅行 日本名所双六
(東京を振出しに各地の名所を廻つて朝鮮京城で上る珍趣向の双六)

◎嫁入して一番困つた事……九山、天野、金子三夫人
▲常盤御前論……吉田博士 山脇房子 三輪田元道 下田歌子 戸川博士 大島博士 矢島揖子 吉田博士 安部磯雄 小林盈 杉浦重剛 鈴木光愛 西田敬止 宮田脩 佐治實然
◎飛行機の發明を助けた妻の苦心……奈良原繁尾子
◎米國から日本へ新婚旅行……代議士令息 森久保喜太郎
◎婦人の最も心得べき手紙の書き方……女子商業學校講師 渡邊白水
▲身に泌みて忘れ難き母の一言……跡見花蹊 山脇房子 棚橋絢子 三輪田眞佐子 矢島揖子
◎誰にも出來る餅のお料理……弦齋夫人 村井多嘉子
◎東京の各女學校門外觀……千里眼
◎家庭衞生談……村井弦齋
◎髮の洗ひ方……女髮結 戸根愛子

半年六冊 前金七圓 分増刊共 郵稅共壹圓五錢 一年十二冊四冊 向貳圓五錢

日本少年

一冊 拾錢 本號に限り郵稅二錢 半年七冊前金 七十錢 一年十四冊 壹圓三十五錢

▲東鄕大將(西鄕南洲の八百屋の若者は果敢な失敗……)……大尉 寺岡平吾、陸軍大尉 園田寛、記者 田中萬逸
◎生涯中一番怖かつた父の叱責……陸軍大將伯爵 乃木希典
◎少時父に代りて大名と激論す……男爵 澁澤榮一
◎斯くして臆病者も大膽となる……農學博士法學博士 新渡戸稻造

附錄 南極探檢飛行機双六

是れ最新案の双六にして倫敦、巴里、紐育、東京の四個所より互ひに競爭しつゝ南極へ向ふ途中暴風あり、墜落あり、千變萬化興味百出快盡きず

◎日本少年誌友會(詳細本號にあり)總裁大隈伯爵 副總裁新渡戸博士
◎少年武士道の爲に無禮漢を斬る……樞密顧問官子爵 三浦梧樓
◎十四歲で旗艦より大海戰を目擊す……伊知地中將從屬 大山千代雄
▲余が奮發せる動機……日本興業銀行總裁 添田壽一、元帥海軍大將伯爵 伊東祐亨
▲數學遊戲……林學士
▲少年氣質……芳賀博士
▲三十三間堂……喜田博士
▲電氣實驗……大森敎諭
▲れ伽噺一篇 小說四篇……文學博士 井上哲次郎、評家 中村不折、小說家 柳川春葉

少女の友

一冊 拾錢 本號に限り郵稅五厘 半年七冊前金 七十錢 一年十四冊 壹圓三十五錢

▲新年の心……下田歌子女史(本號より毎號執筆さるゝ小品隨筆にして光彩陸離たり)
◎危く惡者の手にかゝらんとして助けられた辨內侍……日本女子商業學校講師 渡邊白水
◎學校外で技藝を修めて居る生徒……日本橋城東小學校長 山邊知之

附錄 新案 およばれ双六

振り出しは門外で一は玄關より入り、一は庭口より廻る珍趣向にして早く食堂に着いたのが勝ちとなる

◎兒を抱き馬に乘つて戰爭……鈴屋花子
◎新式手提げ袋の編み方……磯村春子
▲動物の名前と其鳴き聲……文學博士 芳賀矢一
▲れ伽噺 ▲小說……與謝野晶子 岩下小葉 星野水裏 尾島菊子

幼年の友

一冊 十錢 本號に限り郵稅一錢 半年六冊前金 五十八錢 一年十二冊 一圓十錢

◎美麗なる繪畫と面白きお伽噺を以て全紙を埋む故に全國の子供は爭うてこれを歡迎す

新年大附錄は 紙面ともなり……玩具ともなり……懸賞ともなる

◎繪も話も敎育的にして趣味に富む故に三歲以上十歲以下の子供は玩具や菓子よりも之を悅ぶ

發行所 東京南紺屋町 電話京橋八七四番 八七五番 實業之日本社 振替貯金口座二三六番

賣捌全國各地書店